

令和2年4月1日

令和2年度 新宿区立鶴巻小学校 学校経営方針

新宿区立鶴巻小学校 校長 佐藤 弘明

I 新宿区立鶴巻小学校が目指す学校像

＜ 温もりと優しさに満ちた安心できる場所 ＞
～ 児童が今日一日を心に描き、期待に胸をふくらませて登校する学校 ～

【児童にとって】－楽しさと生き甲斐のある学校－

- 学ぶことが明確、学ぶ充実感がある
- 頑張りが認められ、自信が湧く
- 共に学び生活する喜びと、ドキドキワクワク感動体験がある

【教師にとって】－向上と協働の学校－

- 資質向上と磨き合い
 - 責任の意識と互助の精神で
 - 持ち味や専門性を活かす
 - 子供のために結束して力を発揮
- ### 【保護者・地域にとって】－信頼と親しみのある学校－
- この学校なら、この先生ならといわれる地域の信頼スポット
 - 保護者・地域と共に歩む姿勢で、日常の努力を公開し協力を得る

II 本校の教育目標 と 目指す児童像

将来の社会を生き抜くために、必要な知恵と優しさと精神力を身に付けた子

よく考える子ども

- 課題意識をもって主体的に学び、確かな理解を積み上げる子
- チャレンジする心で集中して粘り強く学び、考えを深める子
- 自分の考えや思いを互いに伝え合える表現力を身に付けた子
- 人や社会、自然とのかかわり方のあるべき姿を考える子

思いやりのある子ども

- 友達のよさを認め、互いの頑張りを喜び合える子
- 相手の立場になって考え、優しい心でかかわれる子
- 心が一つになる心地よさを実感し、協力してやり遂げる子
- 人や社会、自然のあるべき姿を求め、進んでかかわっていく子

たくましい子ども

- オリンピック・パラリンピック開催への意識をもち、健康、安全に気を付け、進んで体力を高める努力を続ける子
- 心が健康で、返事・挨拶・後始末がしっかりできる子
- 健全な心と体で、困難を乗り越え、やり遂げる子

Ⅲ 学校経営の重点

「本物との出会い、本気、チャレンジ、責任、貢献、達成感」をキーワードに、人や社会、自然と豊かにかかわる「鶴巻小だからこそ」できる教育活動の積極的推進

1、工夫と成果が目に見える学習指導の実践

●子ども一人一人の確かな学びを保証する。

温かな学級経営を基盤とした授業のユニバーサルデザイン化を進め、相手意識・目的意識を持ち、進んで学習に取り組む児童を育成する。

●学び合いを重視した課題解決的な学習を日常的に実施する。

児童一人一人の個性や思考力・判断力・表現力、幅広い読解力の伸長等、主体的、対話的で深い学びを推進する。また、外国語・外国語活動においては、各種テキストやデジタル教材等を計画的に活用し、体験的な活動を通して、コミュニケーション能力の素地を養う。

●言語活動の充実を図り、論理的思考力・表現力を育成する。

全教育活動において、筋道を立てて話す力や聞く力等の言語活動の充実を図り、言葉を用いて表現できる児童を育成する。※校内研究の充実を図る。

●全学年における習熟度別指導を実施し、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。

「朝学習の時間を設定し、効果を上げる工夫」「漢字力、計算力の指導（家庭学習の習慣化）」「音読、読書指導」「習熟度別指導」「放課後個別指導、つるっ子塾」の充実を図る。

●本物（人、社会、実物、自然など）から学ぶ活動の計画的実施と充実を図る。

「諸感覚を使う体験」「その道の達人から、その技や能力、生きざま等を学ぶ」「地域の環境を生かした環境教育」「自然や食とのかかわりを生かした生命の教育」「障害のある方や世界の国々の人々と交流し、共生と異文化を理解する教育」

2、心と体の健全な育成のための指導

●道徳科を要として教育活動全体を通じて、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。

教科書や東京都道徳教育教材集を活用し、道徳的価値について自分のこととして考え、多様な考え方や感じ方に接する場を設定するなど学習指導の工夫・改善を行う。特に、命の大切さや自己の生き方にかかわる「いのちの教育」の充実を図る。

●社会貢献の意識の育成

新宿養護学校との交流、地域清掃、ふれあい給食等の活動をととして、「共生社会」の一員である自覚と実践力を育成する。

●6年を手本とする伝統の継承、縦割り班活動の充実

生活の中から課題を見付け、自分たちで解決できる「自治的・実践的な活動能力」の育成を図る。

●幼・保・中との連携

幼・小・中12年間のスパンで園児児童生徒を育成するため、連携教育の充実を一層進める。

●生活指導の徹底

学校としての指導方針を明確にし、規律ある生活態度を育成する。保護者や地域と児童の現状や課題についての共通理解を図り、共に指導していく。

●体力向上を目指す計画的指導

オリンピック、パラリンピックを意識させ、スポーツテストやスポーツギネスを活かした運動や遊びの工夫、マラソン週間の計画的実施、本物から学ぶゲストティーチャーの招聘。

●食や命を大切にする心の育成

食の原点にある命を実感させる工夫（野菜を育てて食べる）、生き物とかかわる体験の工夫をする。

3、教師自らの変革による教育の活性化

●学校経営方針の実現に向けた教育活動を計画的に推進する。

経営方針を具体化するための学級・専科・特別支援教室等の経営案を作成し、PDCA サイクルに基づいた経営を進める。

●授業力の向上を図る。

学級経営と学力向上を両輪とした校内研究に全員で取り組む。また、まなびの教室と連携を図り、ユニバーサルデザインの視点で授業改善と指導法の工夫を推進する。

●子どもに向かう時間を確保する。

教師と児童の信頼関係や児童相互の人間関係を育て、一人一人が自分の考え方・感じ方を伸び伸びと表現できる雰囲気を出る。日常の学級経営で構築する。

●本物から学ぶ活動の工夫と効果を上げる努力をする。

意図的・計画的な「本物」の活用を通して、児童に感動的・効果的な「本物」との出会いを設定する。

●家庭・地域との連携を大切にしたい教育活動

諸通信や教育実践の公開、地域行事への協力、学校HP等を通じた積極的な教育活動の発信を行う。

4、校内外における安全の確保

●安全教育の充実

児童の危険回避能力や行動選択能力の向上をめざし、地域防災・生命尊重を含めた安全教育の充実を図る。

●人権感覚の涵養

学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめ等の未然防止や早期発見・早期解決に向けた迅速で組織的な対応を行う。

●新型コロナウイルス感染拡大防止

新型コロナウイルス感染拡大防止の取組を、東京都・新宿区と連携し最大限進め、児童と教職員とその家族の健康と命を守るため、知恵を出し合って乗り切る。教育活動については、様々な工夫を行い、できるだけ成長につなげる。